

# 第41回 番組審議会議事録

- 1. 開催日時 平成30年4月11日
- 2. 開催場所 Y2 ぷらざ 3階研修室
- 3. 委員出席 委員総数 6名  
出席委員数 5名

出席委員	鈴木 信好	委員長
	佐々木 隆一	委員
	土田 百合子	委員
	菊地 清志	委員
	辻 正憲	委員
欠席委員	岡部 えり子	副委員長

◎横手コミュニティ FM 放送株式会社

出席者 6名

高橋 雅博	支援室長
小笠原 豊	放送局長/番組審議会事務局
木匠 一公	支援室
鈴木 瀬菜	支援室
高橋 一親	支援室
細川 正実	営業部/番組審議会事務局

- (1) 4月課題審議 審議番組『ありがとう山内中学校 洗心自新』  
(平成30年3月25日日曜日 午後1時～ 放送分)

#### 4. 審議事項

- (1) ①審議番組『ありがとう山内中学校 洗心自新』について

##### 【委員からの意見】

- ・前半は内容としては盛りだくさんだと思ったが、もう少し聴く側の立場に立った双方のやり方に工夫を感じた。1年生と2年生のインタビューの間に曲を入れたり、12月に行われた
- ・さとう宗幸さんの紹介ありましたが、10月14日にライブが行われたことを前段に入れると話の内容がわかりやすかったと思う。
- ・地元にある放送局で、他ではできない企画なので非常にいいと思う。
- ・卒業生のコメントが学校関係者に偏っているのが気になった。
- ・学校の匂いが感じられる番組だと思った。
- ・前日祭の時間のほとんどの音量レベルが下がって不明瞭な点が気になった。あれがなくてもそのあとの実行委員のふたりの振り返りがあったので、そこをうまくつないで「前日祭がありました、実行委員はこんな気持ちで・・・」という紹介であれば密度が上がったのでは？
- ・子どもたちと共に創るというのであれば、子どもたちにもいい経験になるのでは？
- ・尺数、長大な長さだと思った。
- ・ラジオはイメージが膨らむ素材、インタビューを並べるのも手法ですがその季節ごとのなにか雰囲気音が音で伝わるともっと学校の雰囲気が出ると思う。例えばセミの音が聴こえて、夏だなんて思って、イベントがあって・・・ほんのちょっとでも入るともう少し聴きやすいものになる。
- ・さとう宗幸さんに関しては、実は制作のバックボーンにドラマがある。それをOBにインタビューするとおもしろい話が聴けそうだった。
- ・生徒たちは、はぎれが良く、一番地元らしいひとが校長先生だった。

##### 《会社側からの回答》

- ・閉校にあたって、山内で育った誇りを持って横手南中学校に行ってほしいという希望を込めて制作した。また、横手かまくらFMとしてなにができるかの限界を試すための放送でもあった。放送はもちろん、写真も合わせてパッケージングして全校生徒に配るといった新しい試みもした。FMとしての存在意義を少しでもわかって欲しいという気持ちを込めて作成した。
- ・インタビュー間のなさや、聞こえづかった点は申し訳なかった。雰囲気を伝えるためでしたが見直しつつ、みなさんの意見を取り入れ今後に生かしたい。
- ・テクニックの件も勉強しながらがんばっていきたい。それぞれのスキルアップを目指していいもの作っていければと思う。

- (1) ②その他の放送番組について

- ・1月の停電時に1時間近く状況が放送されなかったのはなぜか。

##### 《会社側からの回答》

- ・危機管理室からの情報が更新されず、また不安を煽ると考え、独断で放送しなくていいと判断した。今思うと判断ミスだった。